

芸術工学部

I	教育の水準	教育 26-2
II	質の向上度	教育 26-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 27 年度の専任教員のうち、デザインの実務経験を有する教員の割合は 40%、女性教員の割合は 15.4%、外国人教員の割合は 4.4%となっている。また、平成 27 年度の非常勤講師のうち第一線で活躍するデザイナー等の実務家の割合は、57%となっている。
- 平成 27 年度入学者選抜試験において、描画等の実技試験等を課す AO 入試の入学定員に占める割合は 27.4%となっている。
- 第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）において、毎年度集中的に FD 研究会を実施しており、Problem Based Learning（PBL）やデザイン演習授業においてアクティブ・ラーニングを取り入れるなど、授業の改善につながっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 高次のデザイナー養成のための教育課程編成上の工夫として、全学科の科目のうち 20.6%を PBL 科目として開講しているなど、多様な形態の授業と、口頭試験、卒業研究を適切に組み合わせることにより、自主的に行動するとともに、他人と協力して広い視野を持った学生を育成している。
- 平成 26 年度に English Community Space（ECS）を設置し、留学の支援及び留学生との交流や英会話レッスン等を定期的実施しており、平成 26 年度から平成 27 年度において延べ 933 名の学生が参加しているなど、国際通用性のある教育課程を編成している。

以上の状況等及び芸術工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の受賞件数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の合計34件から第2期中期目標期間の合計114件となっており、平成26年度に「TOKYO DESIGNERS WEEK 学校作品展学生賞グランプリ」を受賞した作品は、世界最大級の家具見本市「ミラノサローネ」に出展している。
- 平成27年度に実施した卒業生アンケートでは、「専門教育の有用性について」の項目に対する肯定的な回答は、87.3%となっている。また、「向上した能力について」の14項目のうち7項目で肯定的な回答は80%以上となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における大学院進学率は53%、就職率は94%となっている。
- 平成27年度に実施した就職先・進学先等の関係者へのアンケートでは、「知識や情報を集めて自分の考えを文章や画像等で表現する能力がある」、「豊かな創造性と表現力がある」の項目において、肯定的な回答は80%以上となっている。

以上の状況等及び芸術工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度の専任教員のうち、デザインの実務経験を有する教員の割合は 40%となっている。また、女性教員及び外国人教員の割合について第 1 期中期目標期間と第 2 期中期目標期間を比較すると、女性教員は、8.7%から 15.4%、外国人教員は、2.2%から 4.4%となっている。
- 創造力豊かな学生を選抜するため、実技試験等を課す AO 入試を実施しており、平成 27 年度入学者選抜試験の入学定員に占める割合は 27.4%となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度に「TOKYO DESIGNERS WEEK 学校作品展学生賞グランプリ」を受賞した作品を世界最大級の家具見本市「ミラノサローネ」に出展するなど、国際レベルのデザインコンペティションでの受賞があり、第 2 期中期目標期間における受賞件数は、合計 114 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。